サマーセミナー2005報告

山下 淳[1)]，村上 和人[2)]，金子 俊一[3)]
1) 静岡大学　2) 愛知県立大学　3) 北海道大学

2005 年度のサマーセミナーは，8 月 29 日～30 日の 2 日間，北海道千歳市支笏湖温泉の支笏湖畔温泉 北海ホテルにて開催された．学生の発表は若葉研究会 33 件，研究討論会 2 件の合計 35 件であり，それに加えてチュートリアルセッションでは講師の先生 2 名に特別講演をお願いした．参加者数は企業 3 名，大学教員 19 名，学生 35 名の合計 57 名であった．以下，セミナーの概要について述べる．

1. はじめに

第 14 回目となる今回のサマーセミナーは，北海道支笏湖温泉において，8 月 29 日から 30 日の 2 日間にわたり合宿形式で開催された．映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催で開催されたサマーセミナーとしては，今回で 2 回目となる．

サマーセミナーの主目的は，学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すると同時に，若葉研究者と研究指導者（企業研究者や大学教員）の交流，両学会の研究室や研究者同士の交流を図ろうとするものである．

2. 開催準備と実施形態

2004 年 11 月から企画を開始し，両学会で検討を重ねた．従来は主に担当者 1 名が準備を行っていたことに対して，今年度は以下に示す企画委員会を設置することで，良い意味で責任の所在を明らかにすると同時に，効率的な作業の分担を行った．

企画委員会（敬称略）

画像応用技術専門委員会側

- 金子 俊一（北海道大学，企画委員長）
- 山下 淳（静岡大学，幹事）
- 角田 興俊（日本 IBM，委員）

メディア工学研究会側

- 村上 和人（愛知県立大学，幹事）
- 長谷山 美紀（北海道大学，幹事）
- 貴家 仁志（首都大学東京，委員）
- 長尾 智晴（横浜国立大学，委員）

優秀な若葉研究会での発表者に贈られる優秀発表賞については，12 名で構成される優秀発表賞審査委員会を設置して審査を行った．審査委員会のメンバー全員がすべての発表を聞くことで公正かつ平等な審査を行った．

優秀発表賞審査委員会（敬称略）

代表会委員

- 金子 俊一（北海道大学，企画委員長）
- 山下 淳（静岡大学，幹事）
- 村上 和人（愛知県立大学，幹事）
- 輿水 大和（中京大学，画像応用技術専門委員会代表）
- 貴家 仁志（首都大学東京，メディア工学研究会代表）

審査委員（50 音順）

- 石井 明（香川大学）
- 石井 明（立命館大学）
- 岩橋 政宏（長岡技術科学大学）
- 梅田 和昇（中央大学）
- 久野 義徳（埼玉大学）
- 棚澤 信（旭硝子）
- 長谷山 美紀（北海道大学）

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数および開催状況

参加者数は，企業 3 名，大学教員 19 名，学生 35 名の合計 57 名であり，過去最多となった．

会場としては座敷部屋を用意し，座布団に座りリラックスした気分で発表を聞いてもらうように心がけた（図 1）．

図 1　若葉研究会の様子

3.2 チュートリアルセッション

今年度は「画像認識とユーザインターフェイス」というテーマのもと，2 名の講師の方に特別講演をお願いした．

1. 熊澤 逸夫 教授（東京工業大学）
誰でも触れた途端に何気なく使えるユーザインターフェイスを求めて―画像認識とハプティックデバイスによる入力技術の動向―
2. 長谷山 美紀 助教授（北海道大学）
ユーザが望む映像を提供するために―画像認識とクラスタリングそして意味理解への発展―

本サマーセミナーは若葉研究者が画像処理やその周辺領域の基礎知識を学ぶ良い機会であるという観点から，2 件の特別講演では最新の研究内容を非常に分かりやすく噛み砕いて丁寧に説明して頂いた．それと同時に，これからの研究開発を担う若い人達をエンカレッジする意味で，研究に対する心構えやご自身の経験談などを熱く語って頂き，色々な意味で「ためになる」特別講演であった．

3.3 若葉研究会および研究討論会

学生の発表は若葉研究会 33 件，研究討論会 2 件の合計 35 件であり，発表件数は過去最多となった．異なる 2 つの学会からの参加者が聴衆であったため，普段とは違った面白い視点からの質問やコメントが多く，発表者・指導教員ともに良い刺激を受けた．また，最終日には優秀発表賞の発表が行われ，以下の 4 名の受賞者が表彰された（図 2）．

小川 貴弘（北海道大学）
竹田 健祐（北海道大学）
藤中 夕香（立命館大学）
タンスリヤボン スリヨン（長岡技術科学大学）

図 2　優秀発表賞受賞者

3.4 懇親会

昼間のセミナーと同じ座敷部屋において懇親会を行った．部屋割りと同様，なるべく知り合いでない方同士が一緒になるようにしたことで，様々な人達と話をする機会を設けた．親密な雰囲気の中，特に企業からの参加者と若葉研究者との交流が行われ，参加者同士で有意義な情報交換が行われた．また，セミナープログラムで発表・講演をしない参加者による簡単な自己紹介がなされた．

4. おわりに

今年度のサマーセミナーも，楽しい雰囲気のうちに無事終了した（図 3）．サマーセミナーの準備にあたり大変お世話になった皆様には，紙面を拝借して感謝の意を表したい．

次回のサマーセミナーは，愛知県立大学の村上和人委員長を中心として，2006 年 8 月～9 月に軽井沢方面で開催される予定である．

図 3　サマーセミナー2005 参加者集合写真（2005 年 8 月 30 日撮影）